

まち・ひと・しごと創生

第2期小浜市総合戦略

有識者会議 令和4年度評価結果



令和5年8月

企画部 未来創造課

1 評価について

令和3年度から令和7年度を計画期間とする「まち・ひと・しごと創生 第2期小浜市総合戦略（以下、第2期小浜市総合戦略）」は、第6次小浜市総合計画内における人口減少対策について、重点的・優先的に進める政策・施策を取りまとめたものです。

計画では、3つの基本目標に基づく各取組みに対し、令和7年度を目標とした重要業績評価指標（K P I¹）を設定しており、毎年度の進捗状況を翌年度に評価し、目標や指標の達成に向けた事業推進につなげていくこととしています。

2 評価基準について

評価シートにおける評価基準は「第2期小浜市総合戦略」で定めたK P I に対しての令和4年度の到達状況を以下のとおり4段階（A～D）で示しています。

- A…令和4年度の目標値に到達し、基準値より数値が上昇（達成）
- B…令和4年度の目標値に到達していないが、基準値より数値が上昇（順調）
- C…基準値と数値が同一（停滞）
- D…基準値より数値が下降（縮小）

3 令和4年度K P I の達成状況について

「第2期小浜市総合戦略」で設定した重要業績評価指標（K P I）全18項目について、令和5年3月末を基準日として調査しました。

戦略策定時の基準値から数値の推移について、達成段階によりA～Dの記号で判定した結果、A判定（令和4年度の目標値に到達し、基準値より数値が上昇）が33.3%、B判定（基準値より数値が上昇）が16.7%、合計で50.0%の項目が目標達成に向けて推移する一方、D判定（基準値より数値が下降）の項目が38.9%となりました。

判定記号	項目数	構成比	参考（R3年度評価構成比）
A（達成）	6	33.3%	33.3%
B（順調）	3	16.7%	16.7%
C（停滞）	2	11.1%	16.7%
D（縮小）	7	38.9%	33.3%
上記「D」のうち新型コロナウイルス感染症が大きく影響した項目数 5			

※令和4年度目標値は一部新型コロナウイルス感染症の影響を加味して設定したものがあため、結果として目標値には到達してはいますが、基準値よりは数値が下がるため「D評価」となっている項目があります

¹K P I（重要業績評価指標）…Key Performance Indicators の略。事業ごとの進捗状況を検証するために設定する指標

4 評価結果の一覧

基本目標ごとのK P Iの評価結果一覧については、以下に掲載のとおりです。

【まち・ひと・しごと創生 小浜市総合戦略 令和4年度評価結果一覧表】

基本目標1 「ひとづくり」新たな時代を担う人を育むまち

No.	重要業績評価指標 (K P I)	基準値	(参考値) R3 実績値	R4 目標値	R4 実績値	R7 目標値	評価
基本的方向①安心して、子どもを産み育てられる環境づくり							
1	地域子育て支援拠点 事業 実施施設数	3 箇所 (R 元年度)	5 箇所	5 箇所	5 箇所	7 箇所	A
2	認定こども園への移 行園数	1 園 (R 元年度)	3 園	3 園	3 園	5 園 (R 元～R7 合計)	A
基本的方向②次代を担う子どもを育てる環境づくり							
3	キッチンスタジオ利 用者数	1,092 人 (R2 年度)	1,434 人	1,400 人	2,362 人	2,000 人	A
4	(公民館等における) 学級・講座の受講者数	2,800 人 (R 元年度)	2,223 人	2,400 人	2,743 人	3,000 人	D ※
基本的方向③社会の担い手となるひとを増やす環境づくり							
5	お試し体験住宅等を 利用して定住に結び 付いた人数	9 人 (H27～R 元合計)	4 人	2 人	0 人	10 人 (R3～R7 合計)	D

基本目標2 「しごとづくり」活力ある産業と雇用を創出するまち

No.	重要業績評価指標 (KPI)	基準値	(参考値) R3実績値	R4目標値	R4実績値	R7目標値	評価
基本的方向①働きたくなる場と安定した雇用の創出							
6	新規学卒者の地元就職率	73.0% (R元年度)	79.6%	80.0%	83.6%	80.0%	A
7	UIターン就職者の数	133人 (R元年度)	355人 (R3年度133人)	550人	489人 (R4年度134人)	970人 (R元～R7合計)	B
8	空き店舗等を活用する事業所数	2件 (R元年度)	6件 (R3年度2件)	10件	8件 (R4年度2件)	20件 (R元～R7合計)	C
基本的方向②地域資源を活かし、新しい技術を取り入れる産業振興							
9	担い手への農地集積率	52.2% (R元年度)	55.8%	75.1%	56.7%	80.0%	B
基本的方向③地域資源を活用した交流人口の増加							
10	観光交流人口	189万人 (R元年度)	113万人	189万人	120万人	204万人	D ※
11	観光消費額	109億円 (R元年度)	89億円	109億円	89億円	128億円	D ※
12	教育旅行受入者数	5,935人 (R元年度)	3,113人	5,900人	5,419人	7,000人	D ※
13	国際交流関係イベントへの参加者数	1,641人 (R元年度)	603人	1,200人	1,183人	2,200人	D ※

基本目標3 「まちづくり」安全・安心に暮らせる住み心地の良いまち

No.	重要業績評価指標 (KPI)	基準値	(参考値) R3実績値	R4目標値	R4実績値	R7目標値	評価
基本的方向①安全・安心な暮らしの確保							
14	自主防災組織の結成 団体数	112 団体 (R元年度)	120 団体	130 団体	121 団体	147 団体	B
15	地域防災マップの作 成団体数	0 団体 (R元年度)	3 団体	10 団体	10 団体	50 団体	A
16	防災メール登録者数	1,392 人 (R元年度)	1,592 人	1,600 人	1,755 人	1,900 人	A
基本的方向②心身ともに健康で、いきがいのある生活の実現							
17	ふれあいサロン設置 区数	114 区 (R2年度)	114 区	114 区	114 区	117 区	C
基本的方向③市民一人ひとりが活躍する住み心地の良い地域づくり							
18	市民提案事業件数	9 件 (R元年度)	6 件	10 件	6 件	12 件	D

5 有識者会議における委員からの意見等

令和5年7月28日に開催した「まち・ひと・しごと小浜市総合戦略有識者会議」において意見交換した概要は次のとおりです。

指標 No.4「学級・講座の受講者数」について

- ・世代間交流や地域学習などを通して育てることで、地域を見直し、新たな認識を子どもたちが持つようになると、小浜市に残ってくれる子どもたちも増えると思う。子どもたちが色々な経験をできる機会を設けていただきたい。生け花とか茶道という文化面の講座が減っているので、できたらよいと思う。公民館講座の中で、青少年育成や環境問題までできると素晴らしいと思う。

指標 No.6「新規学卒者の地元就職率」について

- ・地元企業の良さを知ってもらってから就職してもらうことが必要。小浜市もふるさと仕事塾など色々なことをやっている。地元の企業の魅力を、中学生から高校生の進路を決めるまでの間で伝えて、選択肢として地元に戻ってくる意識を持ったまま出てもらうことが重要だと思う。

指標 No.9「担い手への農地集積率」について

- ・「地域資源を活かし、新しい技術を取り入れる産業振興」とあるが、農業の持続性で考えるなら、お米を作るだけではなくて野菜とか単価の高いものに切り替えていくようなことも必要ではないか。質を高める、あるいは単価を高めるといったところでスマート化も必要だと思う。やり方によっては、まだまだ伸びるところだと思うので、商工とか色々な一次産業と結び付けていければよい。

指標 No.11「観光消費額」について

- ・来ていただいたお客様をリピーターとして獲得することや、そのために情報発信をするなど、お客様のニーズにどう応えていくかが大事だと考える。若者のほとんどがカード決済で処理をする中、傍から見てもキャッシュレス化の必要性を感じる。

指標 No.17「ふれあいサロン設置区数」について

- ・休眠状態のサロンや、サロンを辞めた地域へも支援をお願いしたい。サロンに行きたいのに行けないという方もいると思うので、辞めたサロンの再支援が必要かと思う。

その他、KPIごとの意見については、別途意見シートでも聴取（評価シート内に記載）。有識者意見については担当課にフィードバックすることで、各地施策に生かしていきます。

6. 評価シート

K P I ごとの評価状況については、評価シート（別冊）のとおりです。

7. 評価結果の公表

総合戦略（K P I 含む）については、達成状況や有識者会議の意見などをもとに、年度ごとの評価を行い、その結果を公表しています。

- ① K P I 等の達成状況の集約（担当課・事務局）
- ② 達成状況および評価の検証、意見集約（有識者会議）
- ③ 評価結果の報告（庁議）
- ④ 評価結果の公表（市公式HP）

○小浜市まち・ひと・しごと創生有識者会議委員名簿

No.	所 属 等	氏 名
1	福井大学	江川 誠一（議長）
2	小浜市議会	牧岡 輝雄
3	小浜商工会議所	新野 峻啓
4	小浜市教育委員会	村上 郁子
5	福井県農業協同組合	中積 俊彦
6	（一社）若狭おばま観光協会	池田 歩
7	小浜市社会福祉協議会	中野 正勝
8	小浜商店街連盟	武長 由里子
9	小浜市民生委員児童委員協議会	古谷 眞知子
10	小浜市P T A連合会	中島 史郎
11	若狭青年会議所	西尾 淳志
11	小浜公共職業安定所	竹内 睦美
13	小浜市防災士の会	浦谷 美由紀
14	W A Cおばま	鳥居 直也
15	浜っ子こども園なかよし会	田中 美保
16	地域おこし協力隊（元）	相澤 弘美

（敬称略 順不同）

【別冊資料】

まち・ひと・しごと創生

第2期小浜市総合戦略

有識者会議 令和4年度評価結果
(評価シート)

令和5年8月

企画部 未来創造課

【基本情報】

K P I	地域子育て支援拠点事業 実施施設数（地域子育て支援拠点事業を行う施設数）	
1	基本目標	「ひとづくり」新たな時代を担う人を育むまち
①	基本的方向	安心して、子どもを産み育てられる環境づくり

【指標達成状況】

年度	目 標	結果	評価	取組状況等	次年度に向けての課題等	有識者会議からの意見
(基準値)	—	3箇所 (R元年度)	—	—	—	—
R3年度	5箇所	5箇所	A	地域子育て支援拠点の設置を推進し、きめ細かな子育てサービスの提供を行うことにより、地域の子育て支援機能の充実を図っている。	親子の交流や子育て相談・指導等、子育て世帯が参加しやすい環境作りに努める。	
R4年度	5箇所	5箇所	A	新・健康管理センター内に子育て世代包括支援センターや子ども家庭総合支援拠点、一時預かり機能を持った子育て支援センターを設置し、相談窓口の集約化を図れるよう準備を進めた。	新・健康管理センターに移設する子育て支援センターにおいて、親子の交流や子育て相談等、これまで以上に子育て世帯が参加しやすい環境作りに努める。	
R5年度	6箇所					
R6年度	7箇所					
R7年度 (目標値)	7箇所					

※評価欄の記号 A・・・目標値に到達し、基準値より数値が上昇（達成）／B・・・目標値に到達していないが、数値が上昇（順調）／C・・・基準値と数値が同一（停滞）／D・・・基準値より数値が下降（縮小）

【基本情報】

K P I	認定こども園への移行園数（幼稚園と保育所の機能を併せ持つ認定こども園へ移行する保育園数）	
1	基本目標	「ひとづくり」新たな時代を担う人を育むまち
①	基本的方向	安心して、子どもを産み育てられる環境づくり

【指標達成状況】

年度	目 標	結 果	評 価	取組状況等	次年度に向けての課題等	有識者会議からの意見
(基準値)	—	1 園 (R元年度)	—	—	—	—
R 3 年度	3 園	3 園	A	今富そらのとり保育園が、認定こども園そらのとりこども園へ移行した。	保育者のニーズや入園希望に対して受け皿を準備する。	
R 4 年度	3 園	3 園	A	保育園の統廃合・民営化を見据え、未満児の入園希望増等の保育者のニーズに沿った施設整備を検討する。	保育者のニーズや入園希望に対して受け皿を準備する。	
R 5 年度	4 園					
R 6 年度	5 園					
R 7 年度 (目標値)	5 園 (R元年度～R7年度合計)					

※評価欄の記号 A・・・目標値に到達し、基準値より数値が上昇（達成）／B・・・目標値に到達していないが、数値が上昇（順調）／C・・・基準値と数値が同一（停滞）／D・・・基準値より数値が下降（縮小）

【基本情報】

KPI	キッチンスタジオ利用者数（食文化館のキッチンスタジオにて食の体験をした人数）	
1	基本目標	「ひとづくり」新たな時代を担う人を育むまち
②	基本的方向	次代を担う子どもを育てる環境づくり

【指標達成状況】

年度	目標	結果	評価	取組状況等	次年度に向けての課題等	有識者会議からの意見
(基準値)	—	1,092人 (R2年度)	—	—	—	—
R3年度	1,200人	1,434人	A	生涯食育事業の充実および実施。 義務食育事業の充実および実施。 新たな生活様式に対応した食育の取組み。	利用者が固定化していることが課題となっている。今後は今まで利用が少なかった若い世代等に対して、利用促進の取組みが必要である。	小学生の将来なりたい職業であるパティシエや料理人の体験イベントを地元のフルーツや食材を使って行ってはどうか。
R4年度	1,400人	2,362人	A	生涯食育事業の充実および実施。 義務食育事業の充実および実施。 新たな生活様式に対応した食育の取組み。	SNSを活用した情報発信等の成果により、若い子育て世代の利用が増加した。引き続き、利用促進に向けて、内容の充実や情報の発信に取組む。	
R5年度	1,600人					
R6年度	1,800人					
R7年度 (目標値)	2,000人					

※評価欄の記号 A・・・目標値に到達し、基準値より数値が上昇（達成）／B・・・目標値に到達していないが、数値が上昇（順調）／C・・・基準値と数値が同一（停滞）／D・・・基準値より数値が下降（縮小）

【基本情報】

K P I	学級・講座の受講者数（公民館等で開催した各種学級・講座の受講者数）	
1	基本目標	「ひとづくり」新たな時代を担う人を育むまち
②	基本的方向	次代を担う子どもを育てる環境づくり

【指標達成状況】

年度	目 標	結 果	評 価	取組状況等	次年度に向けての課題等	有識者会議からの意見
(基準値)	—	2,800人 (R元年度)	—	—	—	—
R3年度	2,200人	2,223人	D	公民館などの社会教育施設を拠点として、地域の素材や人材などを活用し、住民一人一人が思いを寄せて地域学習活動に取り組める講座等を企画、実施。世代間交流、青年学級、高齢者学級等。	コロナ禍においても、より充実した教室・講座を実施するため、他団体との連携を強化する。	
R4年度	2,400人	2,743人	D	コミュニティセンターなどの社会教育施設を拠点として、地域の素材や人材などを活用し、地域学習に取り組める講座等を企画、実施。世代間交流、青年学級、高齢者学級等。	他団体と連携しながら、各世代のニーズに合わせた教室・講座を実施していく。	世代間交流や地域学習などを通して育てることで、地域を見直し、小浜市に残ってくれる子どもたちも増えると思う。子どもたちが色々な経験をできる機会を設けていただきたい。講座の中で、青少年育成や環境問題までできると素晴らしいと思う。
R5年度	2,600人					
R6年度	2,800人					
R7年度 (目標値)	3,000人					

※評価欄の記号 A・・・目標値に到達し、基準値より数値が上昇（達成）／B・・・目標値に到達していないが、数値が上昇（順調）／C・・・基準値と数値が同一（停滞）／D・・・基準値より数値が下降（縮小）

【基本情報】

K P I	お試し体験住宅等を利用して定住に結び付いた人数（お試し体験住宅等の利用者のうち、本市への定住に結び付いた人数）	
1	基本目標	「ひとづくり」新たな時代を担う人を育むまち
③	基本的方向	社会の担い手となるひとを増やす環境づくり

【指標達成状況】

年度	目 標	結 果	評 価	取組状況等	次年度に向けての課題等	有識者会議からの意見
(基準値)	—	9人 (H27年度～R元年度合計) 年平均1.8人	—	—	—	—
R3年度	2人	4人	A	お試し体験住宅の整備や、移住者向けのサイトでの情報発信を行った。各まちづくり協議会に対し、就業環境を含めた移住者を受け入れる体制づくりをしてもらうよう働きかけている。	コロナ禍で事業を推進するために、柔軟な受け入れ体制やオンラインの活用などが必要である。	基準値と目標値がそれぞれ5年間の合計値となっており、単年度ごとの評価をする際の比較がしにくい。
R4年度	2人	0人	D	お試し体験住宅の整備や、移住者向けのサイトでの情報発信を行った。各まちづくり協議会に対し、移住者を受け入れる体制づくりをしてもらうよう働きかけている。	お試し体験住宅の確保、地域における受け入れ体制の整備を行う。学生連携事業の継続的な受け入れと地域内の事業理解の推進を図る。	
R5年度	2人					
R6年度	2人					
R7年度 (目標値)	10人 (R3年度～R7年度合計) 年平均2人					

※評価欄の記号 A・・・目標値に到達し、基準値より数値が上昇（達成）／B・・・目標値に到達していないが、数値が上昇（順調）／C・・・基準値と数値が同一（停滞）／D・・・基準値より数値が下降（縮小）

【基本情報】

K P I	新規学卒者の地元就職率（新規学卒者のうち地元就職した者の割合）	
2	基本目標	「しごとづくり」活力ある産業と雇用を創出するまち
①	基本的方向	働きたくなる場と安定した雇用の創出

【指標達成状況】

年度	目 標	結 果	評 価	取組状況等	次年度に向けての課題等	有識者会議からの意見
(基準値)	—	73.0% (R元年度)	—	—	—	—
R3年度	80.0%	79.6%	B	地元就職率向上のために、ふるさと仕事塾などのキャリア教育事業を実施し、市内企業の認知度向上や子どもたちの職業観醸成につなげる。	就業、創業など、年代やニーズによる多様な働き方に対応した事業内容を検討する。	より具体的なふるさと探求学習（例えば、地域おこし協力隊、市が活躍を期待する分野の専門家などの講演や体験活動など）が、子どもたちの成長や達成感、さらにはキャリア学習となり、地元に残る動機づけにならないかと思う。高校生の就職率は高いかもしれないが、就職後すぐに辞めてしまうという話をよく聞く。就職率だけでなく、離職率も大事だと思う。それを防ぐ環境づくりができないだろうか。
R4年度	80.0%	83.6%	A	地元就職率向上のために、ふるさと仕事塾などのキャリア教育事業を実施し、市内企業の認知度向上や子どもたちの職業観醸成につなげる。	就業、創業など、年代やニーズによる多様な働き方に対応した事業内容を検討する。 都会の企業には無い地元企業ならではの強み・魅力を伝える。	地元企業の良さを知ってもらってから就職してもらうことが必要。小浜市もふるさと仕事塾など色々なことをやっている。地元の企業の魅力を、中学生から高校生の進路を決めるまでの間に伝えて、選択肢として地元に戻ってくる意識を持ったまま出て行ってもらうことが重要だと思う。
R5年度	80.0%					
R6年度	80.0%					
R7年度 (目標値)	80.0%					

※評価欄の記号 A・・・目標値に到達し、基準値より数値が上昇（達成）／B・・・目標値に到達していないが、数値が上昇（順調）／C・・・基準値と数値が同一（停滞）／D・・・基準値より数値が下降（縮小）

【基本情報】

KPI	UIターン就職者の数（UIターン者のうち地元就職した人数）（延べ数）	
2	基本目標	「しごとづくり」活力ある産業と雇用を創出するまち
①	基本的方向	働きたくなる場と安定した雇用の創出

【指標達成状況】

年度	目標	結果	評価	取組状況等	次年度に向けての課題等	有識者会議からの意見
(基準値)	—	133人 (R元年度)	—	—	—	—
R3年度	410人	355人 (R3年度133人)	C	企業誘致活動の推進。 サテライトオフィス誘致に向けた体制整備。 学生や保護者への市内企業の情報発信。	若者や女性を惹きつける企業を誘致することで、UIターン者などの働き手の確保を目指す。	県外、市外へ学業や就職のために出た人が戻ってきやすい職業や産業、雇用をどのように整えていくのかについて、何か計画はあるのか。 若者や女性を惹きつける企業誘致を目指すということだが、現在小浜にある企業が若者や女性を惹きつけられるようになる施策はないのか。女性が働きやすい設備が整っていない企業もあるように思う。
R4年度	550人	489人 (R4年度134人)	B	新たな企業の進出を推進する。 サテライトオフィス誘致に向けた体制整備。 学生や保護者への市内企業の情報発信。	サテライトオフィスを採用している企業を誘致しUIターン者などの働き手を確保する。 今後の企業誘致に向けた方針の検討。	小浜市は他のところと比べて家賃が高いように感じる。1人暮らしの若者に優しくない。例えば、U・Iターン者への手当てとして家賃補助を充実させてはどうか。
R5年度	690人					
R6年度	830人					
R7年度 (目標値)	970人 (R元年度～R7年度合計)					

※評価欄の記号 A・・・目標値に到達し、基準値より数値が上昇（達成）／B・・・目標値に到達していないが、数値が上昇（順調）／C・・・基準値と数値が同一（停滞）／D・・・基準値より数値が下降（縮小）

【基本情報】

K P I	空き店舗等を活用する事業所数（空き家や空き店舗を活用して起業・事業を行った件数）（延べ数）	
2	基本目標	「しごとづくり」活力ある産業と雇用を創出するまち
①	基本的方向	働きたくなる場と安定した雇用の創出

【指標達成状況】

年度	目 標	結 果	評 価	取組状況等	次年度に向けての課題等	有識者会議からの意見
(基準値)	—	2件 (R元年度)	—	—	—	—
R3年度	7件	6件 (R3年度2件)	C	主に中心市街地における賑わい創出のための空き家・空き店舗を活用した創業支援の実施。	創業支援関係制度の整理。 分散している創業相談窓口を商工会議所へ集約し、相談・支援含めたワンストップ化 継続的な支援のための財源の確保。	
R4年度	10件	8件 (R4年度2件)	C	多様化する創業ニーズに応じた創業支援制度の創設・実施	創業後のフォローアップ体制の構築。 継続的な支援のための財源の確保を行うとともに、情報発信に努める。	
R5年度	14件					
R6年度	17件					
R7年度 (目標値)	20件 (R元年度～R7年度合計)					

※評価欄の記号 A・・・目標値に到達し、基準値より数値が上昇（達成）／B・・・目標値に到達していないが、数値が上昇（順調）／C・・・基準値と数値が同一（停滞）／D・・・基準値より数値が下降（縮小）

【基本情報】

K P I	担い手への農地集積率（農地面積のうち、担い手の農地が占める割合）	
2	基本目標	「しごとづくり」活力ある産業と雇用を創出するまち
②	基本的方向	地域資源を活かし、新しい技術を取り入れる産業振興

【指標達成状況】

年度	目 標	結 果	評 価	取組状況等	次年度に向けての課題等	有識者会議からの意見
(基準値)	—	52.2% (R元年度)	—	—	—	—
R3年度	70.3%	55.8%	B	人・農地プランの作成、農地中間管理事業の活用、中心経営体の設立・法人化支援。 各経営体の経営計画・投資計画の策定と実行支援、多面的機能支払交付金の活動組織の体制強化支援。土地改良事業の推進。就農希望者の募集、育成。	山間部は遊休化した農地が多く集積が進んでいない。耕作条件が特に悪いため、担い手が生まれにくく課題となっている。	高齢化の問題があり、農業の後継者が育っていない。将来性のあるような農政を考えてほしい。近隣では観光農園が増えているので、検討をしてもよいのではないかと。
R4年度	75.1%	56.7%	B	農地中間管理事業の活用、中心経営体の設立・法人化支援。 将来性のある農業経営ができるよう各経営体の経営計画・投資計画の策定と実行支援、多面的機能支払交付金の活動組織の体制強化支援。 土地改良事業の推進。就農希望者の募集・育成。	高齢化による担い手不足が課題となっている。 担い手を中心に話し合いを通じた地域計画策定が将来性のある農業へとつながるため、取り組みを確実にやっていく。 観光農園を含めた新たな営農形態についても模索していく。	「地域資源を活かし、新しい技術を取り入れる産業振興」とあるが、農業の持続性で考えるのなら、お米作るだけでなく野菜とか単価の高いものに切り替えていくようなことも必要ではないか。質を高める、あるいは単価を高めるといったところでスマート化も必要だと思う。やり方によっては、まだまだ伸びるところだと思うので、商工とか色々な一次産業と結びついていければよい。
R5年度	80%					
R6年度	80%					
R7年度 (目標値)	80%					

※評価欄の記号 A・・・目標値に到達し、基準値より数値が上昇（達成）／B・・・目標値に到達していないが、数値が上昇（順調）／C・・・基準値と数値が同一（停滞）／D・・・基準値より数値が下降（縮小）

【基本情報】

K P I	観光交流人口（市内の観光施設等に訪れた観光客数）	
2	基本目標	「しごとづくり」活力ある産業と雇用を創出するまち
③	基本的方向	地域資源を活用した交流人口の増加

【指標達成状況】

年度	目 標	結 果	評 価	取組状況等	次年度に向けての課題等	有識者会議からの意見
(基準値)	—	189万人 (R元年度)	—	—	—	—
R3年度	117万人	113万人	D	おばま観光局、若狭おばま観光協会、県、JR、および大手旅行会等と連携して、地域資源を生かした周遊・滞在型観光の旅行商品を開発。また、食を看板とした観光の「目的地」として選ばれるよう、食を軸に、滞在型観光と組み合わせた旅行商品の開発や情報発信に取り組んでいる。	新幹線敦賀開業に向けて、引き続き、民間を主体とした事業の支援を行うとともに、観光事業者をはじめ、地域全体による敦賀開業時の「おもてなし」などの機運醸成が急務となっている。	
R4年度	189万人	120万人	D	小浜でしか食べられない食を観光の目的とする「食観光」を推進するため、市内飲食店や生産者を対象としたワークショップを開催するなど、民間事業者を中心とした受入れ体制の充実に向けた仕組みづくりに取り組んだ。	北陸新幹線敦賀開業が迫る中未だ観光事業者の気運の高まりが鈍いため、引き続き地域の気運醸成に取り組むとともに、小浜を訪れた観光客へのおもてなしの充実を図り、リピーター確保にも取り組む。	飲食店などの情報の共有について、色々な発信手段を使い、どのように広めるかを、もっと大事にしてほしい。 小浜市には山川登美子という偉人もいますので、日本中から短歌を一筆するイベントをしてはどうか。
R5年度	200万人					
R6年度	200万人					
R7年度 (目標値)	204万人					

※評価欄の記号 A・・・目標値に到達し、基準値より数値が上昇（達成）／B・・・目標値に到達していないが、数値が上昇（順調）／C・・・基準値と数値が同一（停滞）／D・・・基準値より数値が下降（縮小）

【基本情報】

K P I	観光消費額（観光客による宿泊費、交通費、土産代、入場料等の合計額）	
2	基本目標	「しごとづくり」活力ある産業と雇用を創出するまち
③	基本的方向	地域資源を活用した交流人口の増加

【指標達成状況】

年度	目 標	結 果	評 価	取組状況等	次年度に向けての課題等	有識者会議からの意見
(基準値)	—	109億円 (R元年度)	—	—	—	—
R3年度	70億円	89億円	D	宿泊者数を増やし、観光消費額を増加させるため、おばま観光局や市内の観光事業者が中心となり、施設の高付加価値や、特産品を活用したお土産物の開発(パッケージ含む)に取り組んでいる。	観光の「目的地」として選ばれるよう、宿泊施設や食の提供などの受け入れ体制の整備に加え、人材の育成が急務である。	
R4年度	109億円	89億円	D	おばま観光局が中心となり、道の駅若狭おばまのリニューアルや商品開発、市内の宿泊客の受入可能数(ベッド数)を拡大していくための新たな投資を行った。	市内におけるキャッシュポイントの拡大や客単価の向上に加え、宿泊プランや土産物を含む観光商品の高付加価値化を図っていく必要がある。	来ていただいたお客様をリピーターとして獲得することや、そのために情報発信するなど、お客様のニーズに応えるかが大事だと思う。若者のほとんどがカード決済をしており、キャッシュレス化の必要性を感じる。
R5年度	125億円					
R6年度	126億円					
R7年度 (目標値)	128億円					

※評価欄の記号 A・・・目標値に到達し、基準値より数値が上昇（達成）／B・・・目標値に到達していないが、数値が上昇（順調）／C・・・基準値と数値が同一（停滞）／D・・・基準値より数値が下降（縮小）

【基本情報】

K P I	教育旅行受入者数（市内施設等における教育旅行受入者数）	
2	基本目標	「しごとづくり」活力ある産業と雇用を創出するまち
③	基本的方向	地域資源を活用した交流人口の増加

【指標達成状況】

年度	目 標	結 果	評 価	取組状況等	次年度に向けての課題等	有識者会議からの意見
(基準値)	—	5,935人 (R元年度)	—	—	—	—
R3年度	2,200人	3,113人	D	ブルーパーク阿納や、御食国若狭おばま食文化館、小浜市水産業拠点施設（旧田島小学校）などの市内受入れ施設の充実に加え、若狭湾観光連盟と連携し、県の海浜自然センター等を活用した広域連携による教育旅行のプログラムの造成に取り組んでいる。	地域資源を活用した、新たな教育旅行プログラムの開発や、人材の育成・確保など受入れ体制を整備するとともに、これまでの中京圏に加え、関西圏や関東圏への情報発信が必要である。	
R4年度	5,900人	5,419人	D	長引くコロナ禍の影響下においても県内の教育旅行を受け入れるなど、リピーターの拡大にも積極的に取り組んでいる。	現状では受入れ可能人数に限界が生じているため、体験メニューの充実とともに受入れ地域等の拡大が急務である。	
R5年度	6,300人					
R6年度	6,600人					
R7年度 (目標値)	7,000人					

※評価欄の記号 A・・・目標値に到達し、基準値より数値が上昇（達成）／B・・・目標値に到達していないが、数値が上昇（順調）／C・・・基準値と数値が同一（停滞）／D・・・基準値より数値が下降（縮小）

【基本情報】

KPI	国際交流関係イベントへの参加者数（市内の国際交流関係グループが実施するイベント等への参加者数）	
2	基本目標	「しごとづくり」活力ある産業と雇用を創出するまち
③	基本的方向	地域資源を活用した交流人口の増加

【指標達成状況】

年度	目標	結果	評価	取組状況等	次年度に向けての課題等	有識者会議からの意見
(基準値)	—	1,641人 (R元年度)	—	—	—	—
R3年度	800人	603人	D	歴史的な物語を活かした国際交流・都市間交流を推進。 国際交流のつどい、西安・慶州とのWEB交流を実施。	新型コロナウイルス感染症の影響はあるが、徐々にでも相互交流が図れるよう、関係団体等と調整する。	
R4年度	1,200人	1,183人	D	歴史的な物語を活かした国際交流・都市間交流を推進。 西安とのWEB交流を実施。	社会情勢を勘案しながら、少しずつ通常通りの交流に移行できるように関係団体と協力・調整する。	
R5年度	1,600人					
R6年度	1,900人					
R7年度 (目標値)	2,200人					

※評価欄の記号 A・・・目標値に到達し、基準値より数値が上昇（達成）／B・・・目標値に到達していないが、数値が上昇（順調）／C・・・基準値と数値が同一（停滞）／D・・・基準値より数値が下降（縮小）

【基本情報】

K P I	自主防災組織の結成団体数（自主防災組織の登録団体総数）	
3	基本目標	「まちづくり」安全・安心に暮らせる住み心地の良いまち
①	基本的方向	安全・安心な暮らしの確保

【指標達成状況】

年度	目 標	結果	評価	取組状況等	次年度に向けての課題等	有識者会議からの意見
(基準値)	—	112団体 (R元年度)	—	—	—	—
R3年度	120団体	120団体	A	自主防災組織未結成区への働きかけとして、出前講座や防災士の会と連携した事業（研修会等）の実施。 自主防災組織の設立に係る経費等への補助。	自主防災組織の結成・登録を促進させるため、出前講座等による啓発を行う。防災士の会との関係性を構築し、地域の防災活動を支援する。	120団体いずれもが活動を実施しているのだろうか。休眠状態あるいは解散状態のところはないか。
R4年度	130団体	121団体	B	自主防災組織の結成率の低い地区の区長会に出向く等、組織結成に向けた働きかけを継続。 自主防災組織の設立に係る経費等への補助。	自主防災組織の結成・登録を促進させるため、出前講座等による啓発を行う。防災士の会との関係性を構築し、地域の防災活動を支援する。災害時の連携を進めていくため地区単位での組織の結成を推進する。	
R5年度	140団体					
R6年度	147団体					
R7年度 (目標値)	147団体					

※評価欄の記号 A・・・目標値に到達し、基準値より数値が上昇（達成）／B・・・目標値に到達していないが、数値が上昇（順調）／C・・・基準値と数値が同一（停滞）／D・・・基準値より数値が下降（縮小）

【基本情報】

K P I	地域防災マップの作成団体数（地域防災マップを作成した自主防災組織数）	
3	基本目標	「まちづくり」安全・安心に暮らせる住み心地の良いまち
①	基本的方向	安全・安心な暮らしの確保

【指標達成状況】

年度	目 標	結果	評価	取組状況等	次年度に向けての課題等	有識者会議からの意見
(基準値)	—	0 団体 (R 元年度)	—	—	—	—
R 3 年度	5 団体	3 団体	B	「地域で作ろう！わがまち防災マップ等作成支援事業」を実施し、自主防災組織による地域防災マップの作成を推進。	防災マップの作成件数を増加させるため、自主防災組織への啓発活動を行う。	R 7 目標値との開きが大きくて、今のままでは到底達成できるとは思えないが、何かでこ入れ策は考えているのか。防災意識向上を狙いとした、マイハザードマップやマイタイムラインの作成などをセットにしたワークショップなどをやるべきと思うがどうか。
R 4 年度	1 0 団体	1 0 団体	A	「地域で作ろう！わがまち防災マップ等作成支援事業」を継続して実施し、未作成団体へのマップ作成を推進。	防災マップの作成件数を増加させるために自主防災組織への啓発活動を行う。また、作成事例を活用した横展開を行い、地域での防災意識の向上を図ることで防災マップ作成につなげる。	
R 5 年度	1 5 団体					
R 6 年度	3 0 団体					
R 7 年度 (目標値)	5 0 団体					

※評価欄の記号 A・・・目標値に到達し、基準値より数値が上昇（達成）／B・・・目標値に到達していないが、数値が上昇（順調）／C・・・基準値と数値が同一（停滞）／D・・・基準値より数値が下降（縮小）

【基本情報】

K P I	防災メール登録者数（小浜市の防災メールへの登録者数）	
3	基本目標	「まちづくり」安全・安心に暮らせる住み心地の良いまち
①	基本的方向	安全・安心な暮らしの確保

【指標達成状況】

年度	目 標	結 果	評 価	取組状況等	次年度に向けての課題等	有識者会議からの意見
(基準値)	—	1,392人 (R元年度)	—	—	—	—
R3年度	1,500人	1,592人	A	区への周知や広報おばまでのQRコードの掲載（毎月）、出前講座等を通じて登録の呼びかけを実施。	登録者数を増加させるため、講演会や研修会等の参加者や関係団体等へ周知を行う。	10年ほど前から運用していると思うが、登録者数が少ない。人口比にしても少ない。小学校の入学時や各種会合の機会に周知すれば伸びるのではないかと。台風やクマなど情報を分けて、使い勝手がよいようにできないだろうか。サイトの文字が小さく、登録へのハードルが高いように感じた。LINEの方が登録しやすいので検討してはどうか。
R4年度	1,600人	1,755人	A	区への周知や広報おばまでのQRコードの掲載（毎月）、出前講座を通じた周知に加え、講演会や研修会等の参加者、関係団体等への登録の呼びかけを実施。	登録者数を増加させるため、担当課だけでなく、発信する情報に関連する課からも、研修会や各種会合等を通じた普及啓発を図る。	
R5年度	1,700人					
R6年度	1,800人					
R7年度 (目標値)	1,900人					

※評価欄の記号 A・・・目標値に到達し、基準値より数値が上昇（達成）／B・・・目標値に到達していないが、数値が上昇（順調）／C・・・基準値と数値が同一（停滞）／D・・・基準値より数値が下降（縮小）

【基本情報】

KPI	ふれあいサロン設置区数（高齢者等を対象とした交流サロンを設置している行政区数）	
3	基本目標	「まちづくり」安全・安心に暮らせる住み心地の良いまち
②	基本的方向	心身ともに健康で、いきがいのある生活の実現

【指標達成状況】

年度	目標	結果	評価	取組状況等	次年度に向けての課題等	有識者会議からの意見
(基準値)	—	114区 (R2年度)	—	—	—	—
R3年度	114区	114区	C	コロナ禍でも可能な方法を模索しながら、各種事業を実施。その中で、知識の普及啓発、健康行動の実践支援、人のつながりを促す活動支援を行っている。	コロナ感染症と共生の方向で、健康の保持増進に欠かせない人との交流や社会参加を促す活動が、安全に実施できるよう支援が必要。	設置区数がこれだけ多ければ、もう数ではなく質をKPIとすべきではないか。たとえば年間サロン開催数とか、利用者満足度など。 高齢になりながらも、地域社会において自分の役割を果たして、生き生きと活躍していることを表す指標とするべき。サロンを実施するにあたり、リーダーの人に負担がかかっているのではないかと。広がっていかない一因だと思う。
R4年度	114区	114区	C	一般介護予防事業、地域介護予防活動支援事業、認知症関連事業、生活支援体制整備事業、フレイル予防事業の効果的な実施。 新しく子ども未来課、市民福祉課と連携して高齢者の保険事業と介護予防の一体的事業を実施。	感染症対策の中で希薄した人との交流や社会参加の機会を再構築し、集う機会の再開や開催回数、参加人数の増加、交流を促進する内容の実施に向けた支援が必要。	休眠状態のサロンや、サロンを辞めた地域へも支援をお願いしたい。サロンに行きたいのに行けないという方もいると思うので、辞めたサロンの再支援が必要かと思う。
R5年度	115区					
R6年度	116区					
R7年度 (目標値)	117区					

※評価欄の記号 A・・・目標値に到達し、基準値より数値が上昇（達成）／B・・・目標値に到達していないが、数値が上昇（順調）／C・・・基準値と数値が同一（停滞）／D・・・基準値より数値が下降（縮小）

【基本情報】

K P I	市民提案事業件数（市民および団体が主体となった企画提案・実施事業の件数）	
3	基本目標	「まちづくり」安全・安心に暮らせる住み心地の良いまち
③	基本的方向	市民一人ひとりが活躍する住み心地の良い地域づくり

【指標達成状況】

年度	目 標	結果	評価	取組状況等	次年度に向けての課題等	有識者会議からの意見
(基準値)	—	9件 (R元年度)	—	—	—	—
R3年度	9件	6件	D	「いいとこ小浜づくり協働推進事業」により、地域の課題解決につながるまちづくり事業の提案を募集。審査を経て事業を採択、実施。	事業の周知を図り、さらなる協働の担い手の発掘に努める。	
R4年度	10件	6件	D	「いいとこ小浜づくり協働推進事業」により、地域の課題解決につながるまちづくり事業の提案を募集。審査を経て事業を採択、実施。	市民提案事業に新たなコースを設立し、申請の勧奨を図る。	
R5年度	10件					
R6年度	11件					
R7年度 (目標値)	12件					

※評価欄の記号 A・・・目標値に到達し、基準値より数値が上昇（達成）／B・・・目標値に到達していないが、数値が上昇（順調）／C・・・基準値と数値が同一（停滞）／D・・・基準値より数値が下降（縮小）